



水稻の生育は平年に比べてゆめみづほで5日、コシヒカリで4日程度早まっています。  
生育状況（管内生育観測田平均、7月17日調査）

ゆめみづほ								
草丈 (cm)			茎数 (本/株)			茎数 (本/m <sup>2</sup> )		
本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年
86	87	83	33	27	31	542	453	500

コシヒカリ								
草丈 (cm)			茎数 (本/株)			茎数 (本/m <sup>2</sup> )		
本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年
81	85	84	21	21	23	374	346	430

- ◎ゆめみづほの出穂期は平坦部で7月15日頃、山間地帯で7月17日頃（平年より5日早い）
- ◎コシヒカリの出穂期は平坦部で7月26日頃、山間地帯で7月28日頃（平年より4日早い）

## 7月27日のカメムシ調査では、飛翔性カメムシを中心にカメムシ類の水田侵入が多く、多くの地点で確認されました。斑点米による落等の危険性がありますので、出穂後の防除を徹底しましょう。

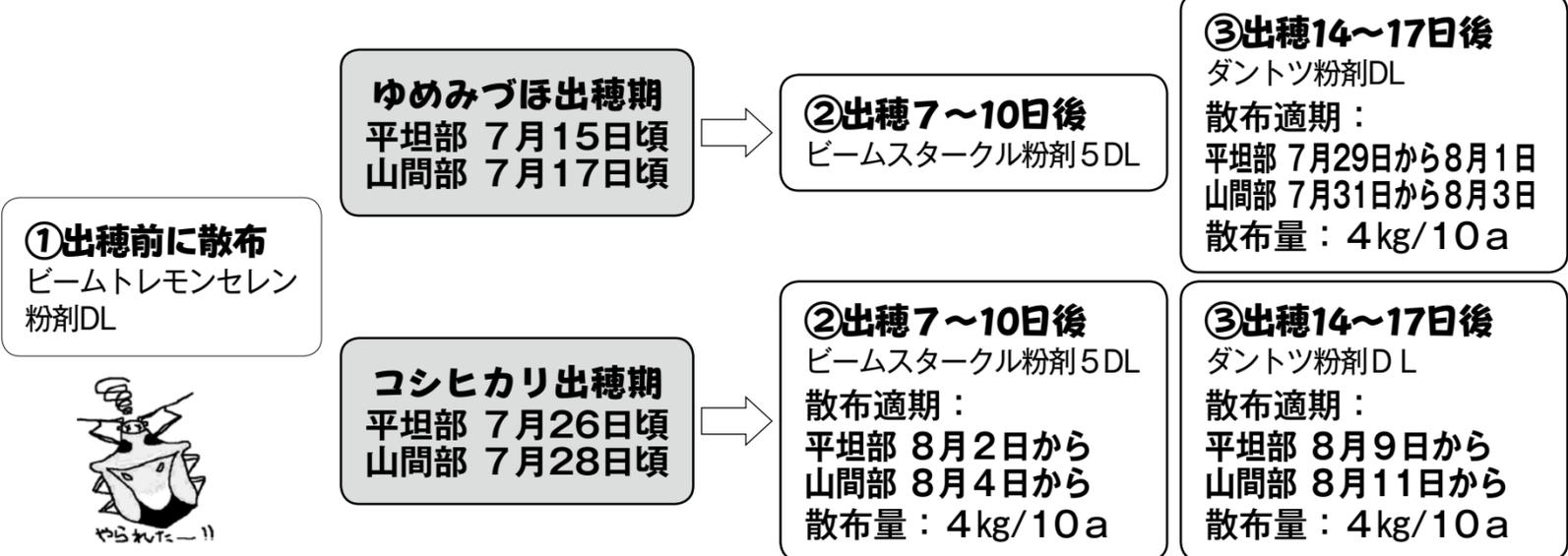
### 石川かほく環境にやさしい農業のすすめ ～粒剤によるカメムシ防除～

飛散の少ない粒剤での省力散布をおすすめします。

**キラップ粒剤** カメムシ類、ウンカ類  
 散布適期：出穂直後～5日後（コシヒカリではただちに散布）  
 散布量：3kg/10a（湛水状態で散布）

- ※イモチエースキラップ粒剤を散布した場合は散布する必要ありません。
- ※散布後15日以上経過しないと収穫できません。

### 粉剤によるカメムシ防除



- ※ビームスタークル粉剤5DL及びダントツ粉剤DLは、散布後8日以上経過しないと収穫できません。
- ※散布にあたっては強風の日を避け、飛散しないように注意してください。

裏面に続きます

薬剤の使用基準を守って安心なかほく米づくり

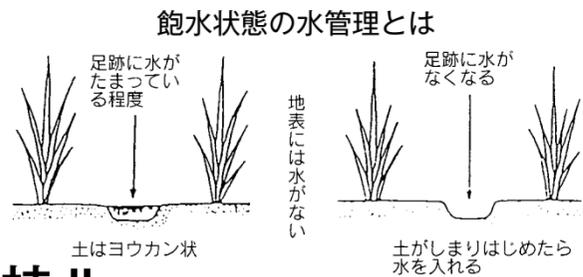
病害虫防除後に栽培履歴へ記入しよう！

# 乳白粒・胴割粒の発生に注意!!

- 土壌の水分不足や、出穂期～出穂20日後の高温（日平均気温27℃以上）により、乳白粒・胴割粒が発生しやすくなります。
- 8月は高温と予想されており、乳白粒・胴割粒の発生が心配されます。



## 乳白粒・胴割粒発生防止 ～最後の決め手は水管理～



- 3～4日ごとの通水で根の活力を維持!!  
＝常に田面が濡れている状態を維持
- 通水は夕方に行い、刈り取り前5日頃まで継続する。
- フェーンには要注意：フェーンの予報がでたら通水、湛水して備える。
- 日中の常時湛水は厳禁：根が傷んで乳白粒、胴割粒の発生を助長する。

## 斑点米カメムシ類の多発に注意!!

7月8日付で、斑点米カメムシ類の多発注意報が発令されています。すでに出穂した本田への侵入が確認されています。コシヒカリの出穂も早まっているため、斑点米発生危険性が高まっています。出穂後の防除を徹底してください。

【飛翔性カメムシ類】



アカヒゲホソドリカスミカメ  
(体長 5～6.5mm)



アカスジカスミカメ  
(体長 4.6～6mm)

【歩行性カメムシ類】



トゲシラホシカメムシ  
(体長 5～7mm)

### JA石川かほく米555共励会 今月のポイント

- 根の活力を維持するため、間断通水を継続し、乳白粒・胴割粒の発生を防止して、品質向上
- 基幹防除を確実に実施し、斑点米の発生を防止して、品質向上

※イノシシの被害が見られた場合は、JAもしくは農業共済(239-2555)までご連絡下さい。  
※ゆめみづほの刈取適期は8月11日(火)以降の新聞にて発表いたします(予定)。

◎営農に関するお問い合わせはJA(☎288-7555)、県央農林総合事務所(☎204-2101)におたずねください。

適切な水管理で元気な稲！  
乳白・胴割れを防止しよう!!

出穂後の防除を徹底し、  
斑点米を追放しよう!!